

京都府田辺町

# 宮ノ下遺跡発掘調査概報

——町立三山木幼稚園増築地の調査——



1997

田辺町教育委員会

## 序

このたび本町南部にある町立三山木幼稚園の園舎を一部増築することとなり、その場所が宮ノ下遺跡の範囲に含まれていることから発掘調査を実施したものです。

調査の結果、調査地のすぐ北側を流れる駒ヶ谷川に関係するものかと考えられる土塁がみつかりました。

調査にあたりましては、関係機関をはじめ多くの方々のご協力・ご指導をいただきましたこととお礼申しあげるとともに、今後とも埋蔵文化財に対しご理解賜りますようお願い申しあげます。

平成9年3月

田辺町教育委員会

教育長 村田新之昇

## 例言

- 1 本書は、平成8年度に田辺町教育委員会が行った宮ノ下遺跡発掘調査の概要報告である。
- 2 現地調査は平成8年6月14日に開始し7月12日に終了した。
- 3 調査組織は次のとおりである。

調査主体…田辺町教育委員会  
調査責任者…田辺町教育委員会 教育長 吉山 勝平（平成8年12月31日まで）  
村田新之昇（平成9年1月1日から）  
調査指導…京都府教育委員会・田辺町文化財保護委員会  
調査担当者…田辺町教育委員会 社会教育課 鷹野一太郎  
同 上 鳥居 幸一  
調査事務局…田辺町教育委員会 教育次長 中川 勝之  
同 参事 古川 章  
同 社会教育課 課長 奥田 清  
同 課長補佐 小西ケイ子
- 4 本書の執筆・編集は鷹野が行った。

## はじめに

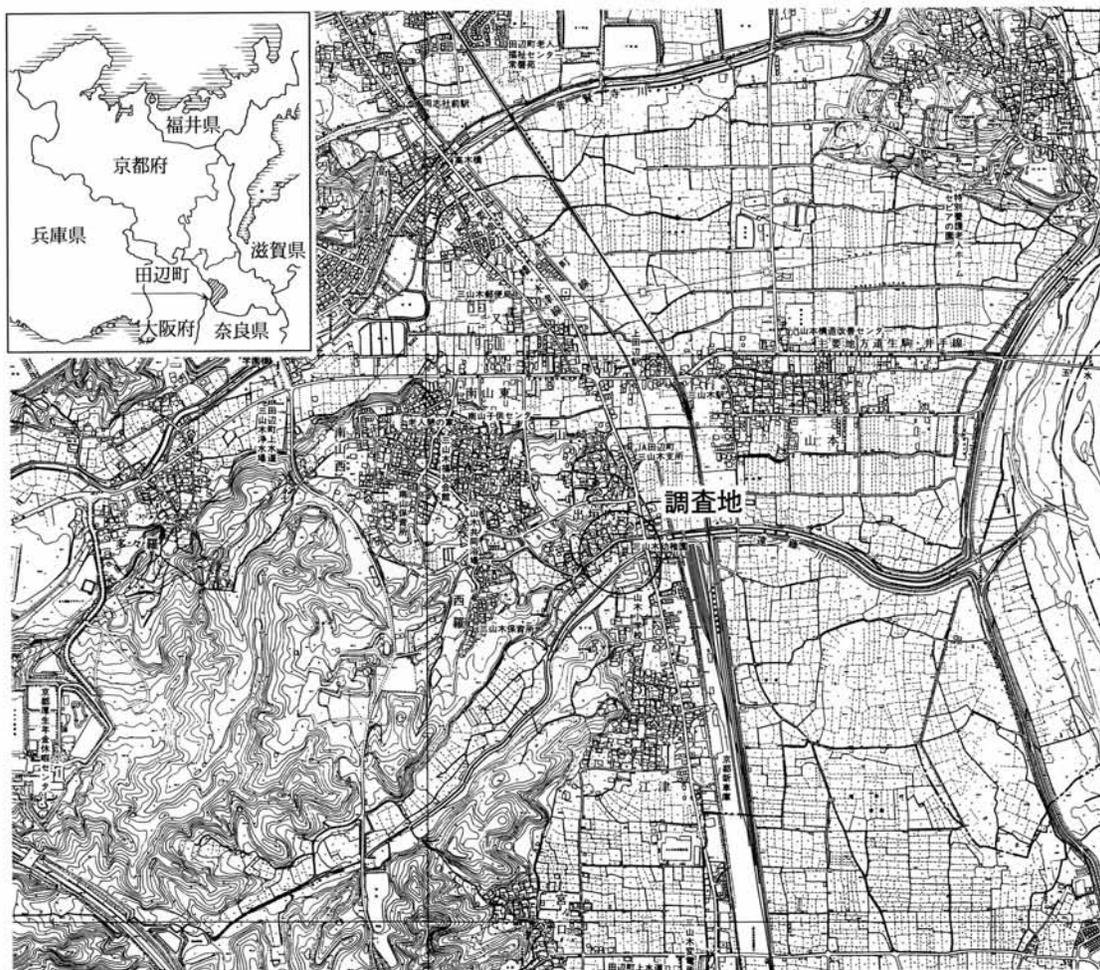
宮ノ下遺跡は、京都府綴喜郡田辺町大字三山木から大字宮津にかけて所在する、南北約650m、東西約400mの遺跡として知られている。遺跡地の中央を府道・JR線・近鉄線がほぼ南北に通っている。

過去の調査で、弥生時代前期の土壌群、中期・後期の方形周溝墓、古墳時代後期の集落、奈良時代の掘立柱建物跡、平安時代の井戸跡など多くの遺物とともにみつまっている。ことに奈良時代では、三彩陶器・硯などの注目すべき遺物がみられ、官衙的な性格が考えられる。

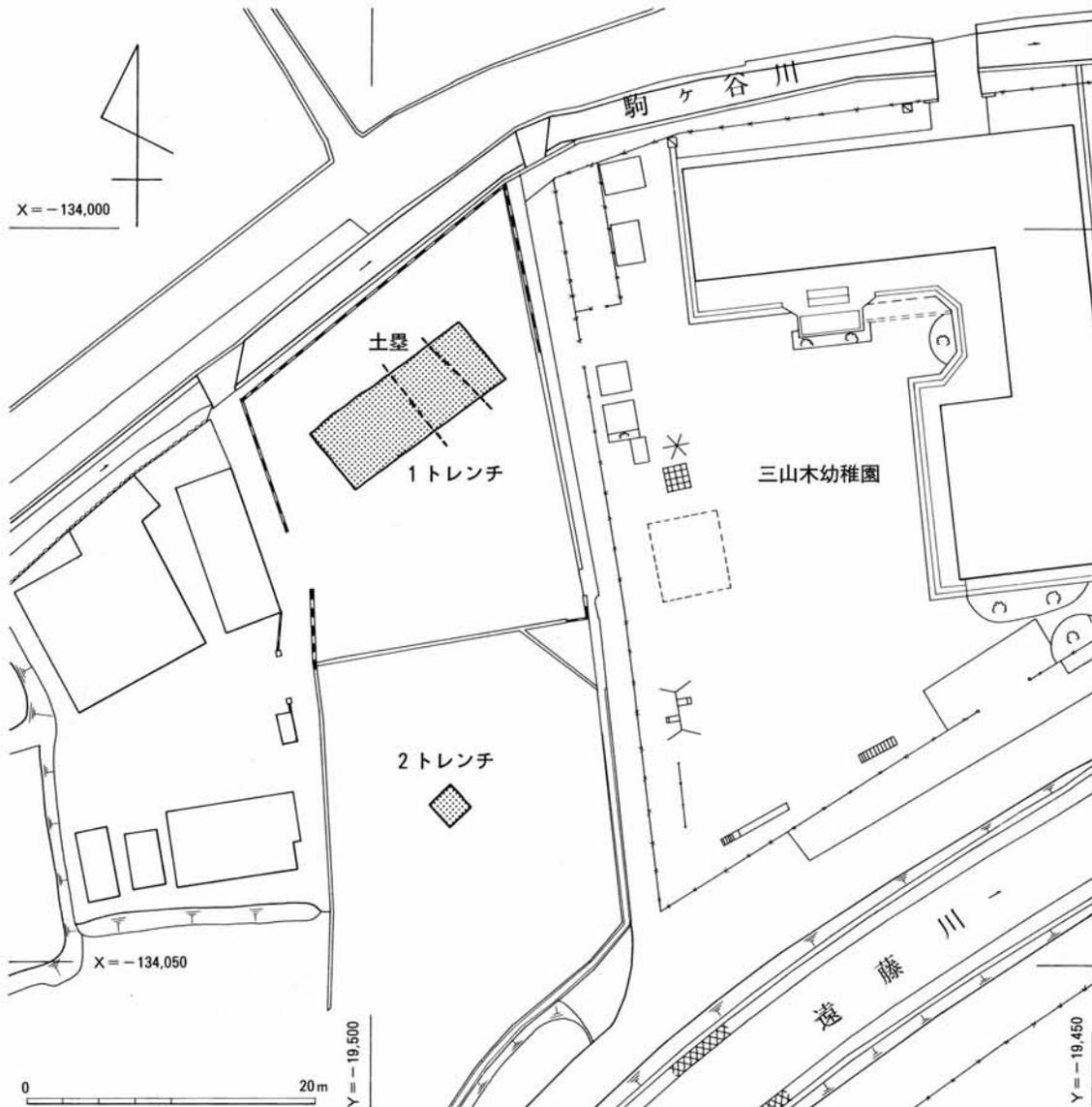
田辺町では、田辺町大字三山木小字南垣内14番地の1に町立三山木幼稚園の園舎を増築することとし、事前の発掘調査の運びとなったものである。

現地調査は平成8年6月14日から開始し、7月12日に終了したが、梅雨と重なり、再三雨中の作業となった。

なお、調査にあたっては、町・町教育委員会関係者の方々、調査に従事された諸氏、その他多くの方々のご協力をいただきましたことをここに記して感謝の気持ちとしたい。



調査地位置図 (S = 1 : 20,000)



トレンチ配置図

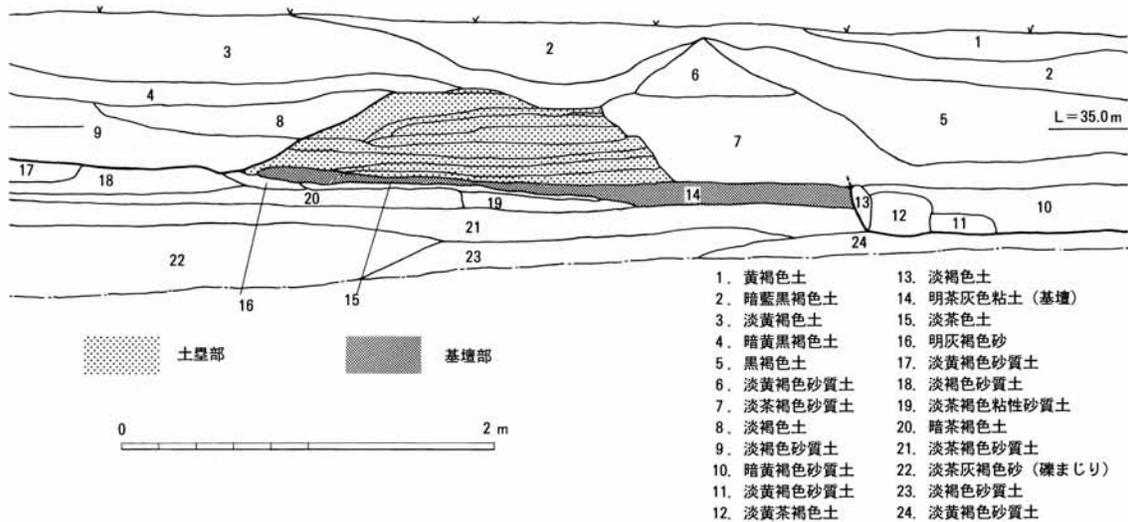
### 調査概要

今回の調査地は、三山木幼稚園の西側に隣接した場所で、調査直前まで住宅があったところである。調査地のすぐ北側を駒ヶ谷川が、南側は道路をはさんで遠藤川がそれぞれ東へ流れている。

調査は、建物予定地に 5 m × 13 m の 1 トレンチ、南側に 2 m × 2 m の 2 トレンチをそれぞれ設定し



調査地全景（南から）



1 トレンチ北壁 土壘部土層断面図

行った。

1 トレンチは住宅のあったところであるが、表土は砂層であった。重機で掘削を行ったが、表土下1 m付近で比較的しまった砂層、粘土層がみられ、それ以下を人力で掘削した。

明確な遺構等はみつからず、砂層内から近世後半とみられる土師皿が見つかる程度で、自然の堆積によるものと考えられた。

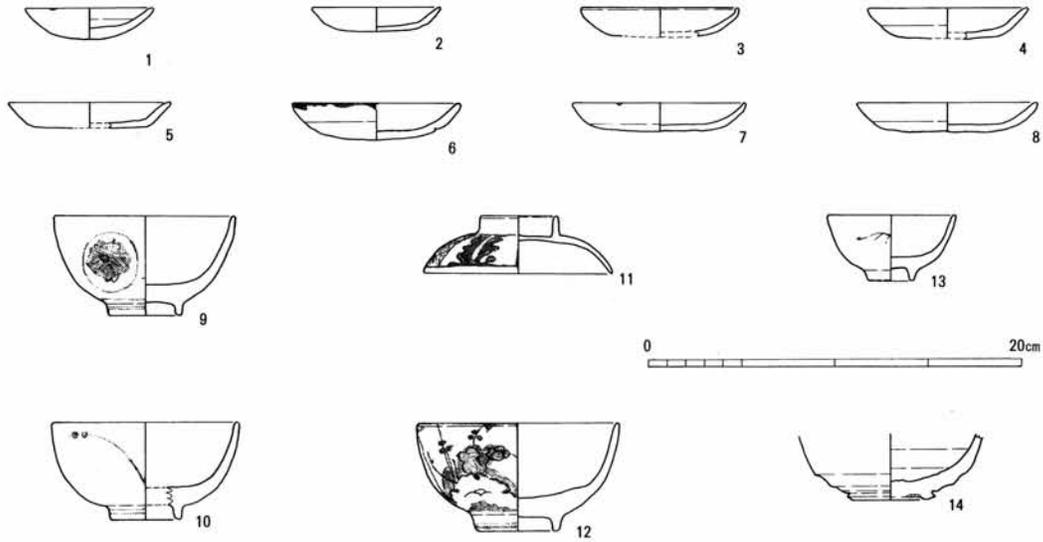
土層断面図作成のため北壁をていねいにみたところ基底幅約3.4 mの土壘がトレンチに直交するように存在していたことがわかった。土壘の東側は西側より一段低いところからはじまっている。土層をみると東側は二段になっているようにもみえるが、後に削られたためそのようにみえるものと理解した。



作業風景 (東から)



作業風景 (西から)



土師器：皿（１）～（８）（１・６は灯明皿）  
磁器：碗（９）、（１０）、（１２）、（１３）、蓋（１１）  
陶器：底部（１４）

### 遺物実測図

## 遺物

今回の調査でみつかった遺物は、須恵器・土師器・陶器・磁器などであり、量的には整理箱に１箱である。時期的には古代の須恵器片があるほかは近世から近代のものとみられ、近世後半以降のものが多い。

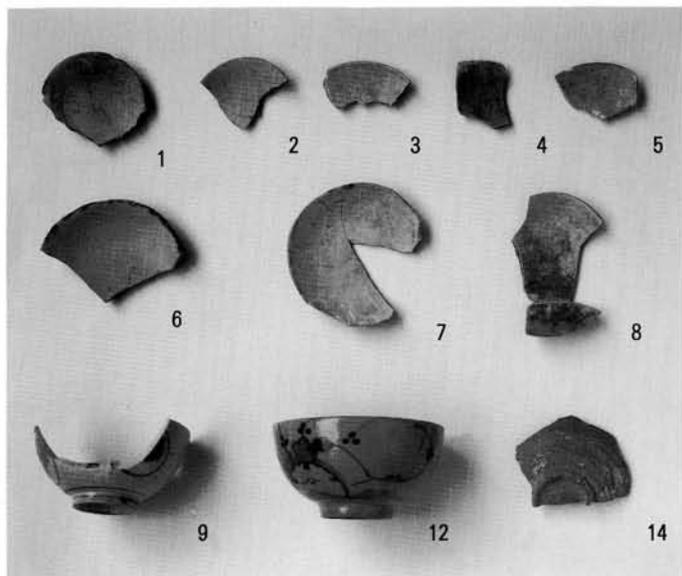
１～８は土師器の皿である。

１・２は小皿で口径6.8cm、３～８は口径8.4～9.6cmを測る。口縁部内外面にヨコナデがあり、内面にはヨコナデからつづくナデあげがみえるものがある（２・４・５・７）。１・６は口縁端部外面にススが付着し、灯明皿として使用されたことがわかる。いずれも密な胎土で作られ、淡褐色を呈するものが多い。

９～１３は磁器である。

１４は信楽系の陶器である。

いずれも近世後半から末にかけてのものと思われる。



出土遺物

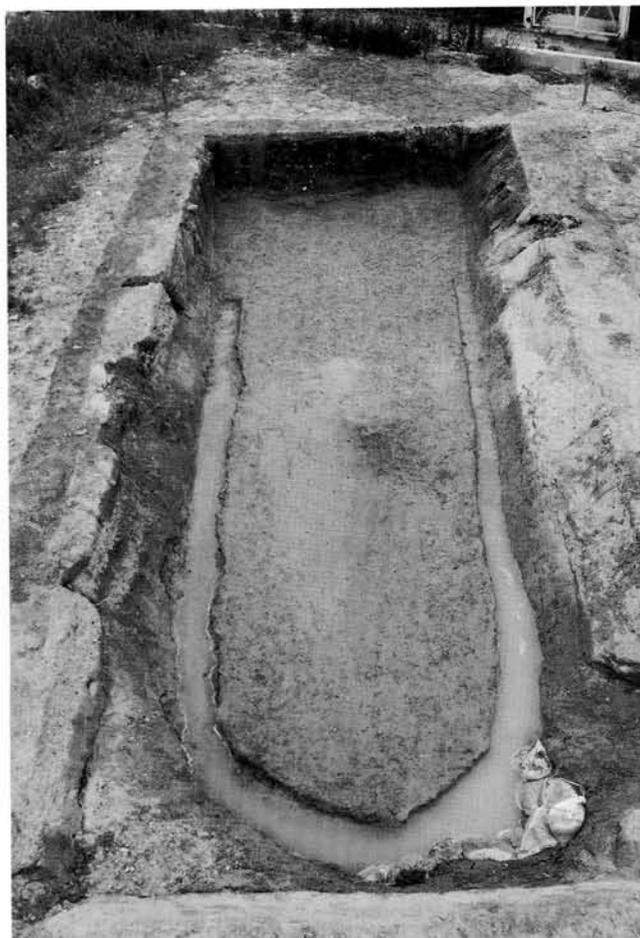
## まとめ

今回の調査は宮ノ下遺跡の北西端で行った小規模の調査であった。内容は前述のとおりであり、期待された古代の遺構等はなかった。遺物も須恵器片を除くと近世後半以降のもののみであった。

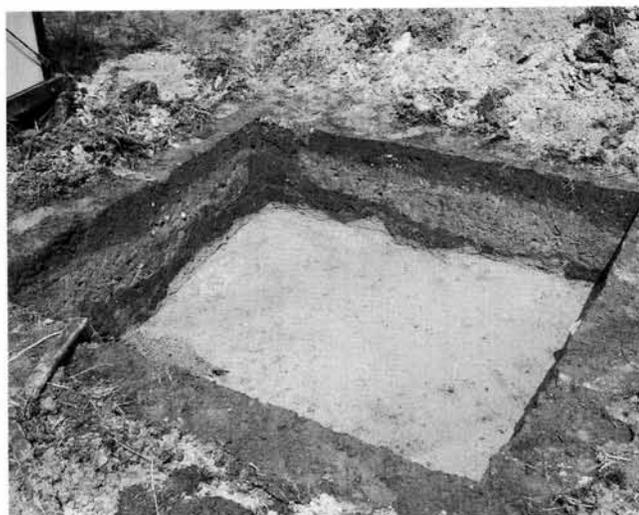
堆積している土砂は、砂・砂質土であり、駒ヶ谷川・遠藤川により上流から運ばれてきた土砂であると考えられる。上流の丘陵部は、砂礫・砂・粘土で構成される大阪層群によって作られている。この砂・砂礫部が、近世以降活発となったと考えられる森林の伐採行為の影響により、大量に流されたことが考えられる。

1 トレンチでみつかった土塁については、部分的なこともあり、性格等不明なことが多いが、すぐ北側を流れる駒ヶ谷川にほぼ直交していることから、あるいは上流から一時に大量に流れてきたであろう土砂を防ぎ止めるためのものだったかとも想像されるが、付近の聞き取り調査でもわからず、不明である。

2 トレンチでも表土下0.5mで砂層となり、状況は1 トレンチと同様であった。



1 トレンチ全景（西から）



2 トレンチ全景（南から）



平成9年3月28日 印刷

平成9年3月31日 発行

宮ノ下遺跡発掘調査概報  
—町立三山木幼稚園増築地の調査—  
(田辺町埋蔵文化財調査報告書第23集)

編集・発行 田辺町教育委員会  
〒610-03 京都府綴喜郡田辺町  
大字田辺小字田辺80番地  
電話 0774-62-9550

印刷 明新印刷株式会社  
〒630 奈良市南京終町3丁目464番地  
電話 0742-63-0661